

地域活性化へ連携協定

本社と「ノオト」福崎を舞台に



協定書に調印したノオトの金野幸雄代表理事（左）と神戸新聞社の高士薫社長＝7日午前、兵庫県福崎町西田原

古民家再生を通じた町おこしに取り組む一般社団法人「ノオト」（篠山市）と神戸新聞社は7日、兵庫県内各地の活性化に向けて連携する協定を結んだ。共同出資での新会社設立を視野に情報発信や人材育成を加速させ、両者の知見を新たなエリア開発につなげる。

ノオトは2009年に発足し、県内外の歴史的建築物を宿泊施設やレストランに活用。実績は篠山や

朝来、養父市など60件を超え、起業家や移住者呼び込む好循環を実現してきた。

連携の初舞台は兵庫県福崎町。民俗学者・柳田国男の生家が残る同町辻川地区でノオトが3月に開いた交流施設「タケムラ」を拠点に、神戸新聞グループの旅行事業ともタイアップし、地域のにぎわい創出を目指す。

この日、タケムラであった締結式で神戸新聞社の高

士薫社長は「兵庫を元気づける、新聞社としての新しいチャレンジ」とあいさつ。ノオトの金野幸雄代表理事は「来春の法改正で、文化財は保護から活用に向かう。両者の強みを融合すれば面白いエリア開発ができる」と抱負を語った。

（井上太郎）